

■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

*: 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC: 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

Ⓒ: パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。


なし: 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 UTokyo OCW 朝日講座「知の冒険」
Copyright 2014, 藤原聖子

The University of Tokyo / UTokyo OCW The Asahi Lectures “Adventures of the Mind”
Copyright 2014, Satoko Fujiwara



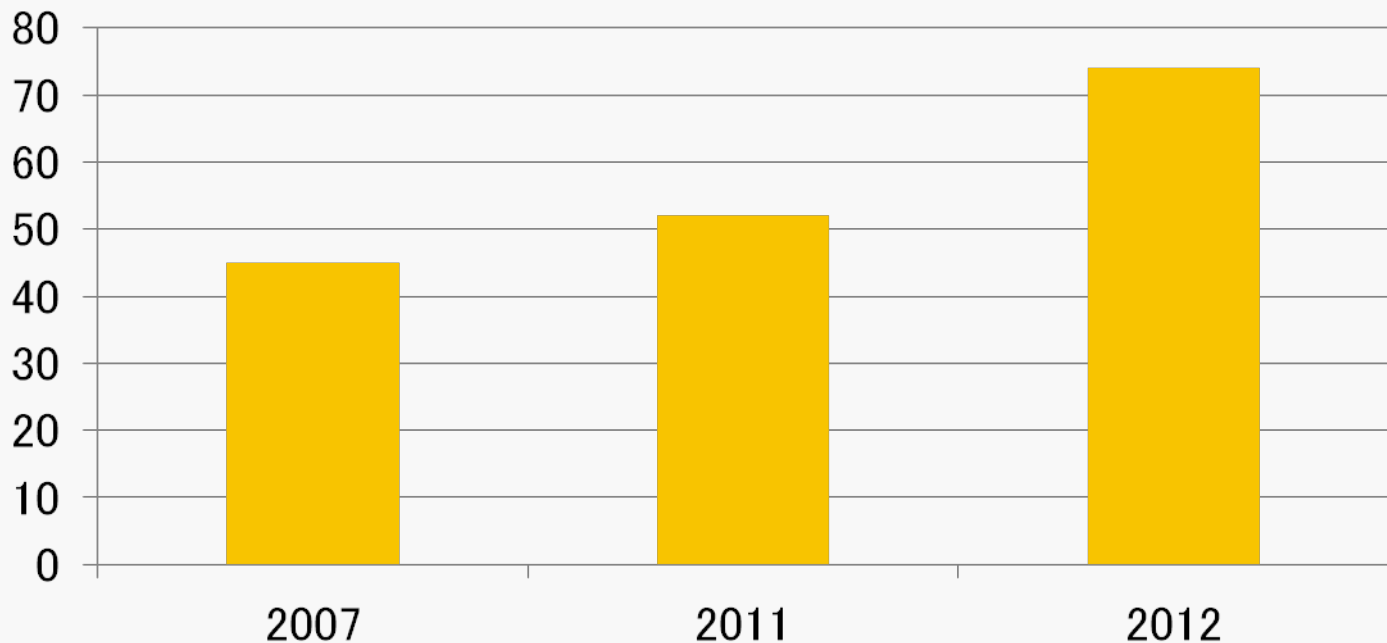
宗教をめぐる共生の現在
—“異文化理解”的発想の陥穽—

宗教対立・宗教迫害 増加中？

2014年1月の報道(Pew Research Center)

宗教を巻き込んだ社会対立

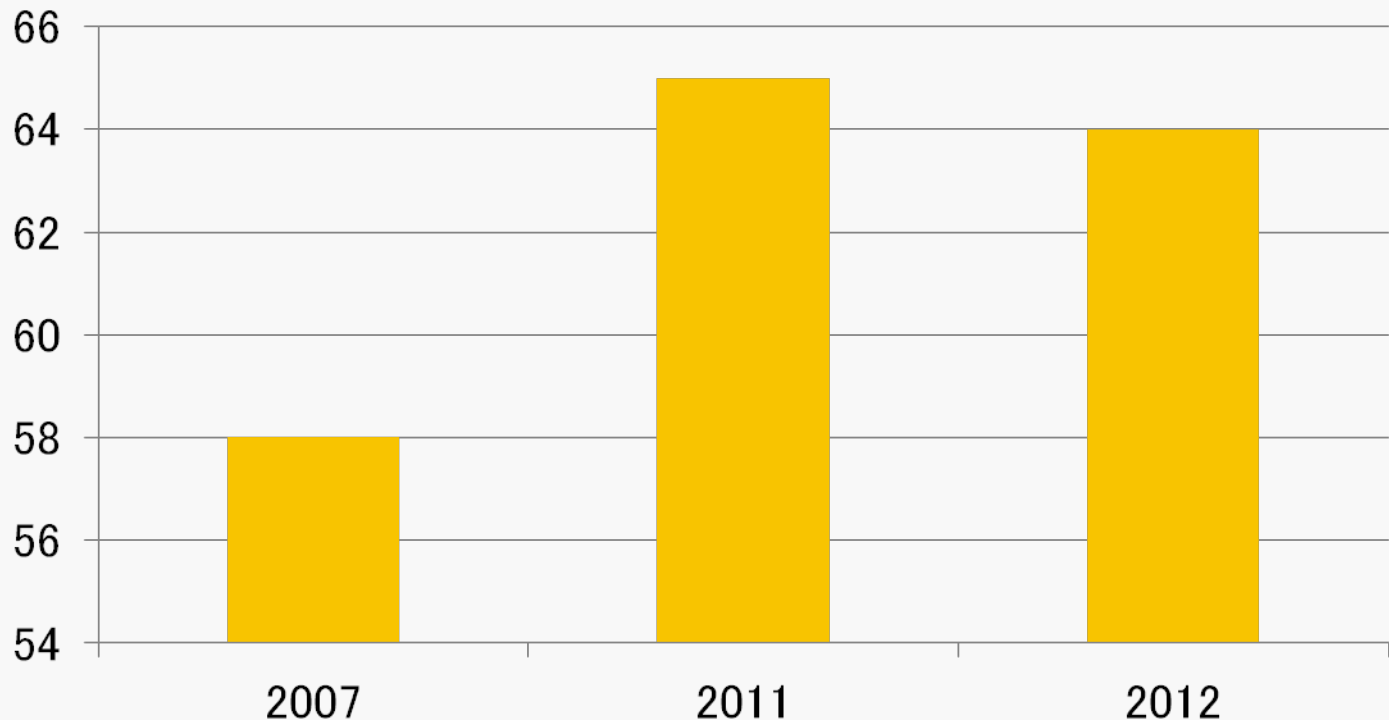
高い・非常に高い地域に住んでいる人口(%)



宗教対立・宗教迫害 増加中？

2014年1月の報道(Pew Research Center)

宗教に対し政府が何らかの規制
高い・非常に高い地域に住んでいる人口

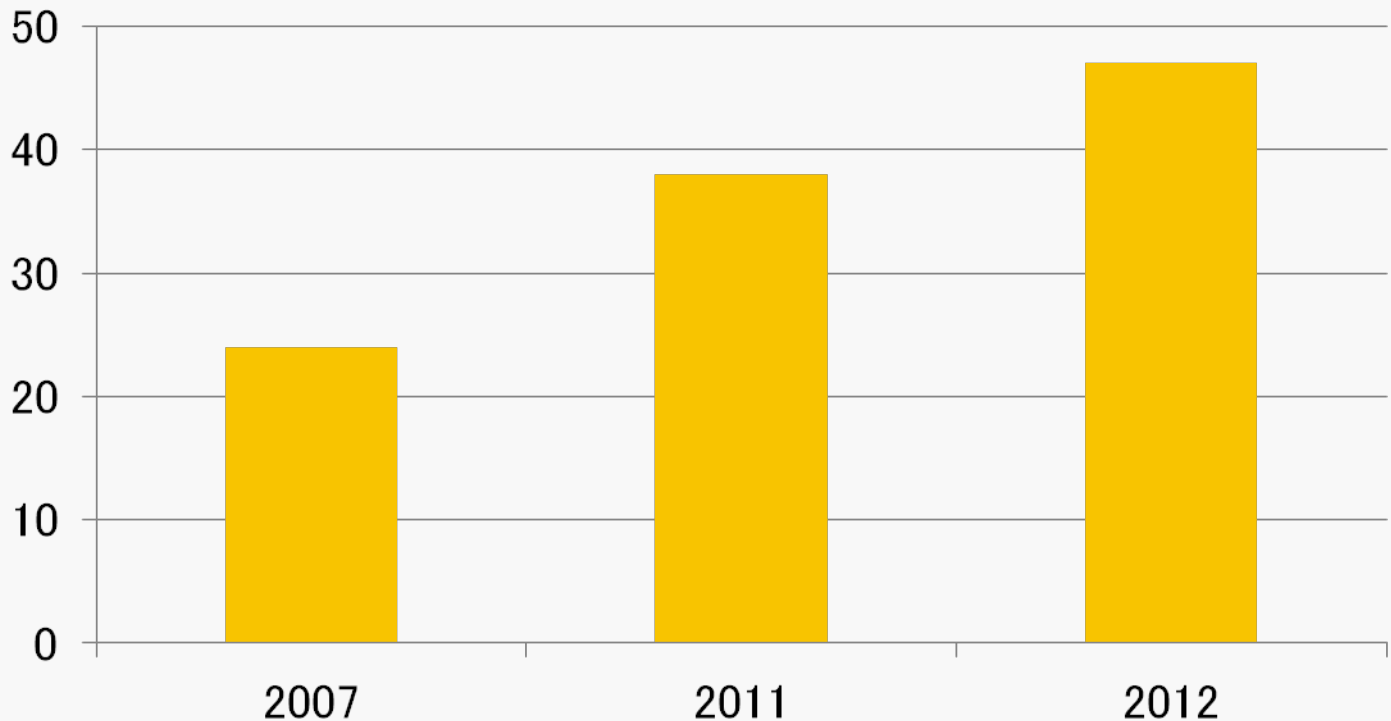


宗教対立・宗教迫害 増加中？

2014年1月の報道(Pew Research Center)

宗教的少数派に対する迫害

そのような事件が起きた国の割合

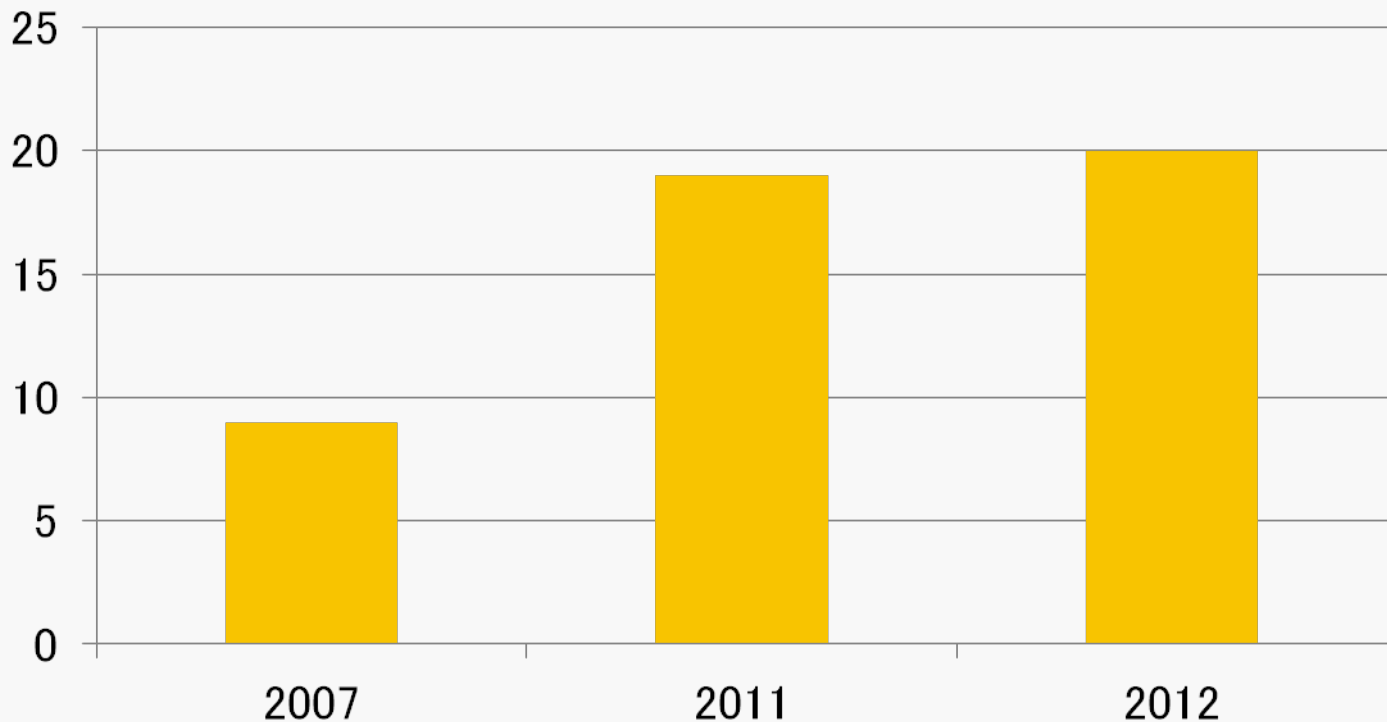


宗教対立・宗教迫害 増加中？

2014年1月の報道(Pew Research Center)

宗教に関わるテロ攻撃terrorist violence

そのような事件が起きた国の割合



宗教対立は宗教間対話で解消するか？

Interfaith Dialogue

宗教間対話が、「宗教対立は、互いの宗教への無理解から生じる。対話によって理解し合えば、対立は解消される」という異文化理解的発想だとすれば？

KAICIID宗教間対話会議

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

KAICIID宗教間対話会議の写真
(Vienna, Austria – 18, 19 November 2013)

<http://www.kaiciid.org/news-events/news/kaiciid-partners-commit-unprecedented-and-sustained-dialogue-education>



● 宗教対立は宗教間対話で解消するか？

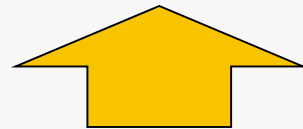
- 互いの宗教を知らないから対立が起こっているとは限らない。類似点の多い宗教間でも、宗教内でも深刻な対立がある。
- 宗教をよく知れば、偏見や差別がなくなるか
というと...
- 宗教間対話のテーブルにつく人たちは、既に一定の価値観や利害を共有している。



この教室の皆さんは


宗教全体に対する警戒心・猜疑心はあるかもしれないが、同じ研究室にムスリムやヒンドゥー教徒の学生がいてもOKという人たちでは？

➡ むしろ皆さんが将来、戸惑いうるのは、思いやり・誠意や、宗教に関する“正しい”知識だけでは、「宗教との共存」が実現できないケース。



本講義でフォーカス

(ただし、それが冒頭の宗教対立問題と無関係ではないことを最後に示唆)




「共生」をテーマにする授業は、 共生という価値をおしつけている？

- TAからの事前質問

普遍性の低い宗教や狂信的信仰も尊重されるべきか？ 共生できるのか？

←「共生せよ！」が授業の前提になっているように見えるので、極端なケースを考えがち。

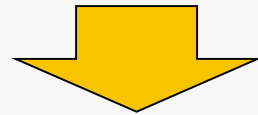
⇒(少なくとも私は)皆さんの主義・信条まで変えてほしいというのではなく、「多様な宗教を尊重・理解し、共生を図るべき」という人たちが見落としている重要な問題に気づいていただくのが目的



同化⇒多文化主義⇒共生 (イギリスの例)

1970年代 イギリスの中学校で

友達にイスラム教徒もヒンドゥー教徒もいたが、
宗教は不可視(イギリス文化への同化)



多文化主義

現在のイギリス

ダイバーシティの積極的評価(学校～企業)

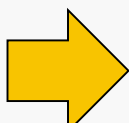
⇒宗教・信仰をオープンに +参加と統合

→多様な宗教の信者とつきあうためのルールが
明示化




イギリスの職場に新ルールが

新入社員を集めて親睦会を行いたい。そのなかには、宗教上の理由でアルコールを禁じられている人たちが少数いる。会場を選ぶのに、幹事は...

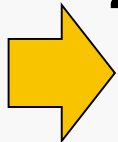
- 
1. バーや飲み屋など、お酒を飲むことが前提となるような場所を選んではいけない
 2. バーや飲み屋にもソフトドリンクがあるので、会場に選んでも大丈夫


「職場の宗教ハラスメント防止」ガイドブックから



新入社員を集めて親睦会を行いたい。そのなかには、宗教上の食の制限があるイスラム教徒やユダヤ教徒もいる。料理の注文で、幹事は...

1. それぞれの教徒向けの食材（イスラム教徒向けのハラール・ミートなど）を買ってきて、みんなが肉料理を食べられるよう配慮すべき
2. そこまでやる必要はなく、普通の肉が食べられない信者のためには、ベジタリアン料理を別に用意しておけばOK





思いやり・寛容の精神や宗教知識だけでは対処できない

- 個別のサービスなら、その人の希望を聞いて、できる限りの対応をすればいいのだが、
 - 懇親会のケースなど、さまざまな宗教の人・無宗教の人に対し、同時に便宜を図るときは、「不公平にならない」ことが重要。
- 「宗教の信者たちに、どの程度まで配慮すれば全員に対して公平だと言えるか (reasonable accommodation)」の基準は、社会により異なる。

多文化主義政策をとる英、米、加、豪など

社員が、礼拝用に静かな空き部屋がほしいといってきたら、会社は応じなければならないか？

1. 空き部屋がいくつもあるのなら、これを断っては、宗教差別になる
2. 他の社員には特別室はないので、不公平である。社員待遇を全員平等にするため、認めないというのがよい

宗教の権利は、昼寝や趣味の権利などと比べれば特別。とはいえ、不利益を被る人を出すことはない。



では、宗教とは何か？

- TAからの事前質問

宗教とはそもそも何か。特定の教義・信念の体系と哲学的立場・政治的イデオロギーとの違いは何か。例えば、動物の権利論はベジタリアンという実践を伴う哲学的立場だが、菜食主義の宗教と区別できるのか。

← イギリスの「職場の宗教ハラスメント防止」ガイドブックでは「ここでの宗教・信仰は、全ての宗教、宗教的信仰ないし類似の哲学的信念と定義される。宗教的信仰に類似していない哲学的・政治的信念はここには含まれない。」

“類似の哲学的信念”としてよく挙がるのは、Humanism (atheism 無神論)、Greenism (環境保護主義)



では、宗教とは何か？

- TAからの事前質問

普遍性の低い宗教、特定の土地や特定の人物・血族などにその信仰や教義を依拠するような宗教もまた、他者から顧慮を受けるべき一つの教説として尊重されるべきなのか。そういった特殊な宗教と共に秩序付けられた社会で暮らすことにはどのような困難が伴うのか。

ガイドブックでとりあげられている、共生のための知恵が必要になる具体的ケースは、相手が“普遍宗教”の場合よりも“民族宗教”や“土着宗教”の場合の方が多く、ということは全くない。

社員サービスですら礼拝ルーム。
ましてや顧客サービスなら…

空港の礼拝室(ニューヨーク・JFK)



ユダヤ教



カトリック

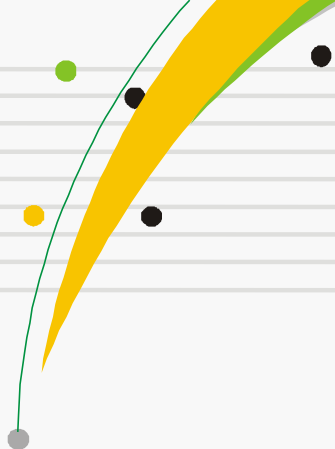


プロテスタント



イスラム・他







ライシテのフランス

- 厳格な政教分離観により、公共の場は「無宗教」にすべきとする。

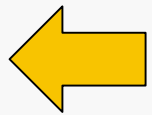
2004年 公立学校で、イスラム教徒の女子生徒は、(宗教的理由で)スカーフを着用してはいけない。他の宗教的衣装や(他人から見える)十字架も同様。

2011年 公共の場で、宗教的理由により、顔を覆うベールを着用してはいけない。



- TAからの事前質問

一般的先進国の確立された法制度と相容れない宗教的実践を禁止することは、特定の価値観にコミットすることになるのか（フランスのヒジャブ禁止など）？



フランスのライシテは、共和主義を公共的価値観としており、その共和主義の信奉ぶりを“宗教的”（ドグマ的）だという人もいるが...



フランスの職場の公平性感覚

- 異性との身体的接触はよくない、とされている宗教の女性信者は、職場の定期健康診断で、男性の医師を拒否することはできるか？

➡ できない。宗教的理由により一部の社員に特別な配慮をすることは、公平ではない。

パリ市交通公団のガイドブックから



フランスの職場の公平性感覚

- 宗教上の理由からの礼拝や集会のために仕事を休むことはできるか？

➡ できない。

パリ市交通公団のガイドブックから



他の例

- 刑務所の食事で、イスラム教徒にハラール食（豚が入っていないなど、イスラムの戒律に則った食事）を出すべきか？

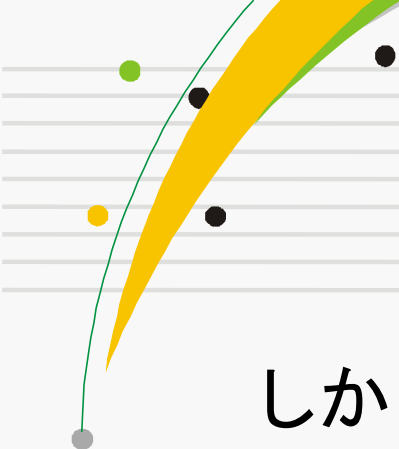
（すでにベジタリアン食は選べるようになっている）



2013年の裁判では「出すべき」



2014年の上告審では「イスラムという特定の宗教を優遇してしまうので、出すべきではない。」



しかし、そのフランスでさえ、空港(シャルル・ド
・ゴール)には今や礼拝ルームが。

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

シャルル・ド・ゴール空港内
の礼拝ルーム
扉の写真

扉には
“Espace recueillement”
“Quiet area”
の文字

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

シャルル・ド・ゴール空港内
の礼拝ルーム
室内の写真

しきりや祭壇はない



欧米以外では

- アジア諸国で、社会と宗教が不可分であり、かつ、(複数の宗教が存在するが)伝統的に1つの宗教が優勢であるケース

…中東諸国(イスラム)、タイ(仏教)など


→その宗教の戒律が、しばしば社会の公共ルールに



ドバイ国際空港

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

ドバイ国際空港内部の写真



著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

ドバイ国際空港内にあるモスクの写真



タイの地下鉄車内

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

タイの地下鉄車内のマーク
の写真

“PLEASE OFFER THIS
SEAT TO MONKS”の文字



日本では

円安→アジアからの旅行客に期待→ビザ緩和→
空港に礼拝室急増（成田空港は今年1月～）

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

成田空港内の礼拝室
扉の写真



全宗教対応礼拝室？

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

成田空港内の礼拝室
室内の写真

ベンチと、天井に方角表示
がある



(企業ではない)学生の意識は？

東大のイスラム教徒の学生(東南アジア出身者)に、困っていることはないか聞いたところ

「学食で、自分の食器が、豚肉料理がのっていた他の人の食器といっしょに、洗い場に吸い込まれて行くのを見て、ゾッとしちゃいました。」

「同じスポンジで洗ってるんだと、つい想像しちゃって、うわっと。」

「慣れるしかないけど、母にはちょっと言えないです。」



(企業ではない)学生の意識は？

解決方法はないか、日本人学生50人に聞いた。

多かった提案

「イスラム学生は、マイ食器を持ってくればいい」

「学食は有料の紙皿を用意する。イスラム学生は追加料金をはらって、それを使えばいい」

・・・日本人の学生は、これが公平だ、という意識

特別サービスなので、イスラム学生の自己負担ならOK。

思いやりが足りない、ではなく

- 日本の学食は、お茶は無料。飲まない人は損をしているのに、「不公平だ」とは言わない。

⇔「宗教的な理由で、紙皿を提供」は特別サービス

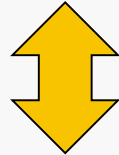


外国から来たイスラム教徒から見れば、お茶の方が特別サービスでは。嗜好より宗教の方がより重視されるべき基本的人権でもある。

根本にある違いは 宗教と公共圏の関係づけ

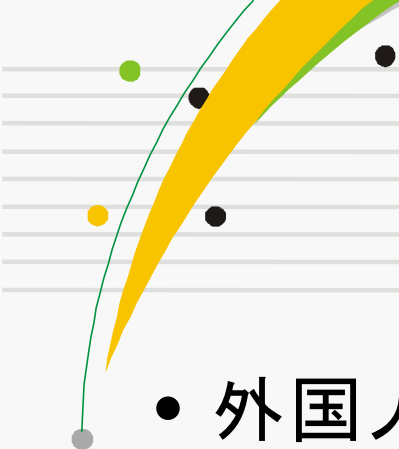
日本人学生は「無宗教」の状態が社会のデフォルトだと思っている

→イスラム学生の便宜を図ることは、一部の学生を優遇することだと見えている。




イスラム学生は、社会のデフォルトは、無宗教状態ではなく、人々が各々宗教を持った上で、平等である状態だと思っている。

→イスラム学生だけ不便、というのはおかしい。

- 
- 外国人にやさしいか冷たいかではなく、「公平性とは」という問題を、宗教が生活に溶け込んでいる人たちを、同じ場の中に入れて考えることに、まだ我々は慣れていない。



大した問題ではない？



無宗教（世俗主義）社会ベースのルールと、それはおかしいという宗教ベースのルールが対立しているのだとすれば、それは「西洋 VS イスラム国」のような国際対立にも重なる。

戦争やテロと言われる武力対立は、経済的問題や移民の疎外問題が解決すれば、緩和されるかもしれない。

しかし、学食の問題は続く...



比較:


J・ハーバーマスの「宗教との共生」論

- 社会が紐帯を回復するために必要とする、「信仰を持つ市民と、持たない市民の 政治的な交流」

「宗教の側も世俗の側も、両者が社会の世俗化を相互補完的な学習過程として理解するなら、公共の場で論争されているさまざまなテーマに対する相手の側からの寄与を、認識上の理由からも相互に受け止めることが可能となる」

引用)ユルゲン・ハーバーマス「二重で相互補完的な学習過程としての世俗化」
(ユルゲン・ハーバーマス, ヨーゼフ・ラッツィンガー著; フロリアン・シュラー編;
三島憲一訳『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』岩波書店、2007年)p.20

➡ 具体的には



イギリスの「宗教共存・共生」授業の課題例

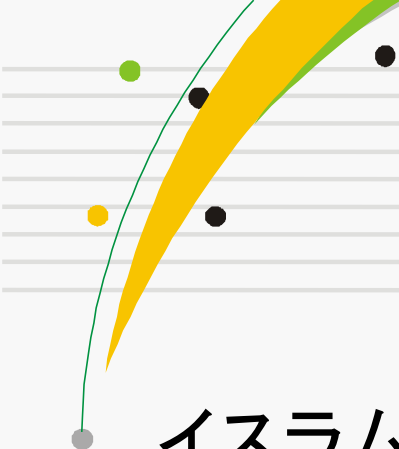
異文化理解型⇒討議民主主義型

死刑について考える単元で

死刑に対する各宗教の信者の諸見解、無宗教の人の諸見解をまとめた情報ファイルを作成する。各宗教の教え・信仰、死刑の是非に関する世論調査、さらに自分の意見を加える。

安楽死・自殺幫助について考える単元で

議会は、安楽死や自殺幫助について法律を制定する時、諸宗教の意見も考慮に入れるべきか。理由や例をつけて自分の意見を述べよ。



ところが、 次のような授業課題はどうか？

イスラムの倫理的判断に関する単元で

クルアーンとハディースからの引用13箇所

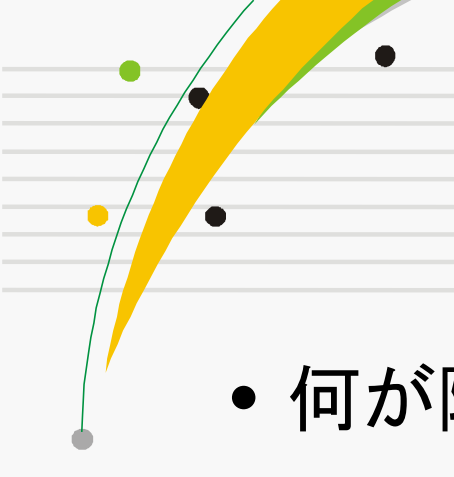
(例:「若い者にはやさしく、老いた者には敬意を」「アルコールとギャンブルは悪魔のわざである」「男性は未婚女性と二人きりになってはいけない」)

- あなたが賛成する教えを3つ、反対する教えを3つ挙げ、その理由や例を示しなさい。
- 21世紀のイギリスで従うには、困難な教えはあるでしょうか？ どれ？ なぜ？



この種の理論・教育実践は

- 共同体(社会)の統合のためには、異文化(他者)理解だけでなく、積極的に政治的な問題、社会の課題について話し合い、共に解決法を考えるという倫理観に基づく(多数派の価値を押しつけないよう配慮)。
- しかし、世俗(無宗教)の価値観がベース(←宗教側から見れば必ずしも中立ではない)。
民主主義社会だからそのベースは当然、と自明視



宗教の共存・宗教との共生 には何が必要か

- 何が障害になっているのかを再考
〈(特定の宗教への)無知→偏見→摩擦〉という
回答が定番だったが、
どこに基準を設定すれば、全員に公平になるの
かが、社会のタイプ(無宗教状態をベースとす
るのか、各々宗教を持っている状態をベースと
するのか)によって違う上に、変化しつつある
- これから日本の社会はどのルールで？ につ
いて議論が必要になってきている

朝日講座第6回

大稔哲也先生・藤原聖子先生

「宗教の共存・宗教との共生」

東大構内に多宗教対応の礼拝室を設けるとしたら、
場所はどこにし、形状・デザインはどのようなものにすれば、
国立大学として適切か。

管理運営に関して考慮すべきことはあるか。

⇒ グループごとに話し合い、プランをまとめる。